

議会だより



CONTENTS

- 11月臨時議会の概要・委員会の構成 …… 2～3
- 12月定例議会の概要・
Y8サミット創快横手市議会 …… 4～5
- 一般質問 …… 6～11
- 常任委員会・分科会審査報告 …… 12～14
- 要望等に対する市の回答(議会報告会) …… 15
- 市民の声、議会の主な動き …… 16

年末年始行事伝承会
～木戸五郎兵衛村(雄物川)～

11月12日から新体制でスタート

11月臨時議会の概要

※11月臨時議会の録画映像は、横手市ホームページの議会のページでご覧いただけます
 [市議会トップページ→議会広報→市議会中継(録画)→平成27年11月臨時会]

去る11月12日に開催された臨時議会で、2交代の申し合わせによる正副議長の辞職に伴い、正副議長選挙が行われました。選挙の結果、議長には佐藤忠久議員が、副議長には菅原恵悦議員が選ばれました。また、各委員会の委員構成も新しくなりましたので、3ページでお知らせします。

一般会計補正予算(第6号)

秋田県未来づくり協働プログラム横手市プロジェクトにおいて「増田ふれあいプラザ」を「まんが美術館」に特化した施設にリニューアルする計画に関連し、増田庁舎に図書館を併設し庁舎2階の事務室を整備する庁舎管理費1650万5千円と、オープンリノベーション事業費718万5千円。また、10月の強風による果樹被害対策事業として、落下果実の処分等に要する経費の一部負担金などの補正460万円や、被害を受けた果樹農家が金融機関から資金を借り入れる際の利子助成補助金50万円について審議しました。

増田庁舎の改修に関し、議員からは「今まで丁寧な説明や協議がなかったのでは」「行政機能が2階に移転するならばエレベーターが必要なのは」といった質疑がありました。これに対し「説明が遅れたことを反省しており、地域づくり協議会にもお詫びした。今後改修が予定されている増田庁舎1階のオープンスペースの運営については、地域の皆さんに報告し、運用の仕方について意見をいただきながら運営していく体制を整えていきたい」「エレベーターは、平成28年度に設置したい」との答弁がありました。

このほかに、果樹被害の対策について質疑がありました。

採決の結果、提案されたすべての案件は全会一致で可決となりました。

教育委員会委員の任命

教育委員に、今仲和代氏(大森・新任)を任命することに同意しました。

(高橋 和樹)

正副議長就任あいさつ



議長 佐藤忠久

このたび、2交代の申し合わせによる改選にあたり、不肖私が議長の要職に就くことになりました。

公共施設の統廃合など市の課題が山積しており、もとより浅学非才ではございますが、全議員とともに全力で取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



副議長 菅原恵悦

この度、副議長という大役を仰せつかりました。多くの行政課題について、市長や市職員の皆様と協議、議論する機会をいただきましたことに心から感謝申し上げます。私なりに議会と市当局が十分に話し合える環境づくりに精一杯努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

委員会の構成が新しくなりました

12月16日現在の各委員会の委員をお知らせします。なお、常任委員会の委員はP12~14に掲載しています。
 ※敬称略。かっこ内は会派名

● 広報広聴委員会 ●

議会広報のみならず、市民の皆さんの声を聞く広報の役割も兼ねた特別委員会として位置づけられました。委員会では、広報と広聴の分科会に分かれ、主に次の役割を担います。

- 広報分科会 議会だよりの編集・発行、FMラジオ・ホームページなどを活用した広報を行います。
- 広聴分科会 議会報告会の企画・運営、市民からの要請に応じた広聴活動などを行います。

委員長・広聴分科会長	遠藤 忠裕 (新 政 会)
副委員長・広報分科会長	佐々木 誠 (市民の会)
委員	高橋 聖悟 (新風の会)
	土田百合子 (公明党)
	高橋 和樹 (みらい横手)
	佐藤 誠洋 (新風の会)
	立身万千子 (日本共産党)
	阿部 正夫 (市民の会)
	奥山 豊和 (蒼生)
	寿松木 孝 (さきがけ)
	土田 祐輝 (新 政 会)
	塩田 勉 (さきがけ)
木村 清貴 (新風の会)	
本間 利博 (市民の会)	

● 議会運営委員会 ●

議会の日程や会議の進め方などを話し合います。

委員長	播磨 博一 (さきがけ)
副委員長	加藤 勝義 (新風の会)
委員	青山 豊 (新風の会)
	佐藤 徳雄 (みらい横手)
	佐々木喜一 (さきがけ)
	齋藤 光司 (市民の会)
	菅原 正志 (市民の会)
	佐藤 清春 (新 政 会)
	斎藤 勇 (日本共産党)
	小野 正伸 (新 政 会)

● 一般会計予算特別委員会 ●

一般会計予算に関して審査します。設置期間は、平成27年12月定例会から平成29年9月定例会までです。

委員長	佐々木喜一 (さきがけ)
副委員長	菅原 正志 (市民の会)
委員	全 議 員

● 議会改革推進会議 ●

議会基本条例の検証と議会改革に関する協議を行います。

委員長	土田 祐輝 (新 政 会)
副委員長	奥山 豊和 (蒼 生)
委員	立身万千子 (日本共産党)
	加藤 勝義 (新風の会)
	本間 利博 (市民の会)
	菅原 正志 (市民の会)
	塩田 勉 (さきがけ)
	塩田 勉 (さきがけ)

佐藤徳雄議員逝去



去る12月19日に、佐藤徳雄議員(平鹿・67歳)が逝去されました。

故佐藤議員は、平成13年9月に、旧平鹿町議会議員として初当選され、平成17年10月の市町村合併を経て今日まで、14年3カ月にわたり議員として市政の発展にご尽力されました。

その間、建設常任委員会委員長、産業建設常任委員会副委員長などの要職を務められるなど、市民目線でのまちづくりに多大な貢献をされました。ここに故人のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

1億3200万円増額の

一般会計補正予算案を可決

12月定例議会の概要

12月定例議会のあらまし

12月定例議会は、去る11月30日から12月16日までの17日間の日程で開催されました。

初日は、同意案件1件に同意したほか、委員会条例で定めている各常任委員会の所管事項を、内容によっては所管以外の委員会で審査することと可能とした議案案1件を原案可決しました。その他の議案、陳情、予算案件は、3つの常任委員会や一般会計予算特別委員会に付託して審査が行われました。

最終日の本会議では、各委員長から審査結果の報告を受けた後、採決が行われました。採決の結果、1月から本格的な運用が始まったマイナ

12月定例議会の録画映像は、横浜市ホームページの議会のページでご覧いただけます
「市議会トップページ」→「議会広報」→「市議会中継(録画)」→「平成27年12月定例会」

ンバー制度に関し、同一機関の部署間で特定個人情報を受受する場合の規定などを定めた新規条例を含む市長提案の議案19件を原案可決。同意案件1件に同意したほか、陳情2件の取り下げを了承し、4件を不採択、1件を継続審査としました。

一般会計補正予算(第7号)

主な補正は、ふるさと納税の返礼品単価の確定などによる業務代行委託料の増額や、クリーンプラザよこて試運転中に発生する主灰のセメント資源化に要する委託料の増額、担い手への農地集積面積の増加に伴い必要となる補助金の増額などです。

タブレット端末導入推進会議を設置

議会資料のペーパーレス化(紙の

削減)や、情報伝達の短縮化などを図るため、平成27年12月9日に設置されました。

委員長 播磨 博一

副委員長 小野 正伸

委員 寿松木 孝、奥山 豊和

委員 本間 利博、高橋 聖悟

公平委員会の委員選任

平成27年12月31日で任期満了の公平委員会の委員に、柿崎良子氏(平鹿を選任することに同意しました。

議会選出の監査委員に阿部議員

議会から監査委員として選出していた佐藤誠洋議員より辞任の申し出があり、新しい監査委員に阿部正夫議員が選出され、同意しました。



※主灰…焼却炉でゴミを焼却したときに炉の底部から排出される燃えがら。

賛否一覧表 (平成27年12月定例会)

会派・議員名	賛否																表決数		議決結果				
	公明党	日本共産党	新風の会				さきがけ				市民の会				新政会					みらい横手	蒼生	賛	反対
①陳情27第25号	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	2	22	不採択
②陳情27第26号	●	○	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	3	21	不採択
③陳情27第27号	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	3	21	不採択
④陳情27第28号	●	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	○	●	5	19	不採択	

●:賛成 ○:賛成 ●:反対 欠:欠席
●:採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他は全会一致で可決されました。

◆ 請願・陳情の審査結果 ◆

陳情7件が審査され、賛否が分かれた左記以外は、次のような結果になりました。(敬称略)

継続審査

- 福地小学校跡地に地区交流センターを建設することについて (雄物川地域づくり協議会 会長 佐藤 誠 ほか1名)

陳情者の申し出による取り下げ

- 安全保障関連二法案の撤回、廃案を求めることについて (平和・民主・革新の日本をめざす横手市の会 (横手市革新懇) 代表世話人 小野 則 夫)
- 安全保障関連二法案の廃案を求めることについて (新日本婦人の会横手支部 支部長 高階 泰 子)

- ① 社会保障の充実を国に求めることについて (秋田県社会保障推進協議会 会長 渡辺 淳)
- ② TPP交渉について (農民運動秋田県連合会 委員長 鈴木万喜夫 ほか1名)
- ③ 安全保障関連二法の廃止を求めることについて (平和・民主・革新の日本をめざす横手市の会 (横手市革新懇) 代表世話人 小野 則 夫)
- ④ 安全保障関連二法の廃止を求めることについて (新日本婦人の会横手支部 支部長 高階 泰 子)

いじめ撲滅の取り組みを報告

Y8サミット創快横手市議会(中学生議会)

昨年度に引き続き、中学生による模擬議会「Y8サミット創快横手市議会」が12月22日に開催されました。

「情報モラルの話をするか」「今後の活動の方向性はどうか」などの質問がありました。また、議員からは「感謝の実践活動が、心からあふれ出るような活動であってほしい」「はつらつとしたあいさつの実践を積み重ね、横手の元気につなげてほしい」などの意見がありました。

(佐藤 誠洋)



各校の取り組みを報告する中学生

これを受け、5人の議員が質問に立ち、「いじめが原因で自ら命を絶つ痛ましい事件は どうすれば

ココが聞きたい

一般質問で市政を問う

12月7日から9日まで一般質問が行われました。今回は11人の議員が登壇し、市民の皆さんの生活にかかわる行政全般について質問をしました。

一般質問の内容は、紙面の都合上、要約して掲載しています。すべての質疑内容は、市議会ホームページの「議会広報」⇒「市議会中継(録画)」にてご覧いただけます。

また、質疑全文を記録した「会議録」は2月下旬から市内各図書館にてご覧いただける予定です。



横手市議会マスコットキャラクター「しらとり議員」

Q 継続してふるさと納税していただくために、返礼品にポイント制導入を

A 他市町村の動向も踏まえ、慎重に検討する



奥山豊和議員

問 地域ブランドの確立と、交流人口拡大に結びつけるためのふるさと納税制度・返礼品の活用は、横手市の魅力を生かした返礼品やサービスの充実を図り、市の魅力向上、ブランド確立に繋げていきたい。

答 地域の特性を生かした返礼品やサービスの充実を図り、市の魅力向上、ブランド確立に繋げていきたい。

問 返礼品の品切れは縁の切れ目になりかねない。ポイントを貯める楽しみが、横手の魅力を深く知ることにつながる気持ちを引き出す仕掛けが必要と思うが、

答 競争を助長するのはふるさと納税の趣旨ではない。

問 返礼品にはお土産品の羅列ではなく、生産者の息づかいや故郷の香り、ロマが感じられる「物語」化が必要と思うが、

答 納税者に伝わる付加価値をつけるのは大切。まだ横手のやり方は完全ではないので、提案を踏まえ改めて磨き直していきたい。



現在、横手市の返礼品は81品。横手に訪れてもらう「体験型観光」のさらなる充実を

問 寄附を通じて、横手を応援している実感をより得られるような取り組みを。

答 将来的に、特典付きの「応援市民証」を発行するなど、当市を訪問していただく仕組みを構築したい。

問 都会に住んでいる方が寄附をしてみようという思いを持って故郷と繋がりをもち、その寄附がまちづくりに役立っている実感を抱けるような使い方をすることが大切と思うが、

答 使い道の経過が気になるような、納税者に注目される取り組みを念頭に入れて行っていく。



土田祐輝議員

Q 企業誘致で雇用の創出と人口減少に歯止めを

A 横手の魅力をアピールし、助成制度を充実させたい

問 最近、企業進出が続いている。どのような取り組みが実績につながったと考えているか。

答 県所有である横手第二工業団地には、10月に「陸特殊金属工業(株)」および「睦合成工業(株)」、11月には「大橋鉄工秋田(株)」と立地協定を締結している。

問 新たな事業所進出には地元の人材が大きなカギを握る。そういう意味で周辺の実業高校の充実が欠かせないものと考えているが、当局の見解を伺う。

答 現在、市では、県との機能合体により、市内高校生を対象とした県南地域の工場見学会や、ハローワーク横手と連携して企業説明



横手第二工業団地

会を開催するなど、地元企業の魅力を知ってもらう、地元就職を促進するための取り組みを行っている。

問 高速道(仮称)横手北スマートインターチェンジ運用に向けて利用促進などを検討すべきではないか。

答 市内の高速交通体系の整備については、現在(仮称)横手北スマートインターチェンジの詳細設計や用地取得を実施しており、平成30年度の完成を目指して事業実施している。開通後は利用促進が求められているので、経済効果の視点を含め、検討していきたい。



佐々木 誠議員

Q 肥料の偽装表示問題にどう取りくんでいくのか

A 県やJAなど関係機関と連携し対応していく

問 農協で販売した肥料に成分の表示と中身が違っている肥料があり、大きな問題となっている。農産物の販売にも影響が出ているようだ。市では現在の状況をとどのように捉えているか。また、対応について問う。

答 今回の偽装肥料の問題は、県を挙げて県産農産物のブランド化を進める中で、生産者の努力の成果のみならず、消費者等の信頼を損なう誠に遺憾な事件である。この問題については、まずはJA全農が総力を挙げて補償方法の提示などの措置を講ずるべきと考える。

今後、さまざまな影響が出てくるのが予想されるので、市としては、県やJAなど関係機関と連携し、対応していく。

問 平成27年はカメムシの被害による着色粒が多く発生し、品質の低下が見られた。品質向上を目指しているか。



平鹿生涯学習センターにて開催の農業委員会総会

問 農協で販売した肥料に成分の表示と中身が違っている肥料があり、大きな問題となっている。農産物の販売にも影響が出ているようだ。市では現在の状況をとどのように捉えているか。また、対応について問う。

答 今回の偽装肥料の問題は、県を挙げて県産農産物のブランド化を進める中で、生産者の努力の成果のみならず、消費者等の信頼を損なう誠に遺憾な事件である。この問題については、まずはJA全農が総力を挙げて補償方法の提示などの措置を講ずるべきと考える。

今後、さまざまな影響が出てくるのが予想されるので、市としては、県やJAなど関係機関と連携し、対応していく。

問 平成27年はカメムシの被害による着色粒が多く発生し、品質の低下が見られた。品質向上を目指しているか。

平鹿生涯学習センターにて開催の農業委員会総会



Q 2年間の市政運営は雑だったと思うが、どう受け止める？

A 反省する部分もあろうかと思う

青山 豊 議員

問 市長の任期の半分が経過した。掲げられた政策について、現時点での総括を伺う。

答 起業・創業にチャレンジする方への支援、ITを活用する方や女性起業家への支援などを積極的に推進し、また、企業育成のため、地元企業への優先発注にも積極的に取り組んだ。

農地の担い手への集積化、組織化に向けた取り組み強化と新規就農者を確保する体制のさらなる強化を図っている。

若者が住み続けたいと思うまちを創るためにも、出産子育てしやすい環境を高いレベルで維持できるように、現在策定を進めている「総合戦略」の実践により、さらにその取り組みを強化していく。

昨年度と今年度は大規模な防災訓練を行っており、平成27年9月に行った総合



横手市総合防災訓練(十文字地域)

●市職員と地域社会の関わりについて

防災訓練では、支援が必要な高齢者、障がい者の避難および避難支援訓練を実施したことにより、各自の役割や支援行動を再確認することができた。

問 この2年間の市政運営は市民に対する説明、議会との意見交換、市役所内部での情報共有が不十分であり、雑だったと思う。

答 指摘をしっかりと受け止めて反省する部分もあるかと思う。情報提供や意見を頂く形をつくっていく。



Q 組織再編によるまちづくり推進部の分掌が広すぎるのではないか

A 地域局をはじめ各課と緊密な連携を図り業務にあたる

菅原 正志 議員

●組織再編の評価について

問 地域局に予算執行の自由度を高める財源を付与すべきではないか。

答 地域局予算の中で大きく占める「元気の出る地域づくり事業」等、各事業の検証や仕分けを行い、予算の配分方法など地域づくりの仕組みを検討していく。

問 生涯学習や社会教育など、教育委員会との関わり方に不具合はないか。

答 今年度から総合教育会議を設置。市長と教育委員会が市の教育についての課題や目指すべき姿を共有し、教育のさらなる推進に向けた取り組みを進めている。

●農業対策について

問 耕作困難・放棄地の増加への対策は。

答 集落営農や農業生産法人の組織化による経営の安定化や規模拡大による所得向上に向けた取り組みを今後支援していく。



平成27年度から市長部局の所属となった生涯学習課

担い手へ農地の集積等を進め、耕作放棄地の増加を防ぐ取り組みを強化していく。

問 廃園・放任園対策は。

答 廃園農地といえども個人の財産であり、所有者や管理者の許可なく手を加えることなどができず、課題解決に至らない場合もある。市としては実効性のある対策が進められるよう、国や県などに働きかけていく。

問 永年作物から畑作に転換する場合の補完対策は。

答 畑作物の直接支払交付金の活用と並行して、引き続き要綱等の改正を国・県に強く要望していく。



Q 投票率向上に向け、若者への働き掛けをどうするか

A 市独自に選挙概要を分かりやすく解説した冊子を高校生に配布する

播磨 博一 議員

問 投票率低下が問題となっているが、市の最近の傾向とその分析はどのようになっているのか。

答 合併後の平成17年10月の市議選の投票率が84.03%、平成21年10月が75.99%、平成25年10月が68.72%だった。投票率の低下は、一般的に若者を中心とした選挙に関心の薄い人々の増加や、有権者の自分の一票で選挙結果は変わらないという心理が投票行動の低下を招いているのではないかと考えられる。

問 投票結果を見ると期日前投票の投票率が上がってきている。さらに利便性を向上できないか。

答 期日前投票は順調に伸びてきており、制度が浸透してきている。現在、7地域局と本庁舎、イオンスーパーセンター横手南店の9カ所を実施している。これ以上増やすことは難しい状況



況だが、市役所よりも投票しやすいとの声もあるので、現在の地域局からショッピングセンターへ移設することについては、課題もあるが議論を深めていく。

問 急激な投票所の統合が投票率低下につながったのではないかと。また今後さらに統合はあるのか。

答 合併時99カ所あった投票所を平成21年10月に68カ所に統合した。データを分析したが統合した投票所と、統合しない投票所で顕著な差は見られない。今後の統合については、現時点では考えていない。



Q まんが原画10万点収集の財源と見通しは？

A 収集目標を30万点に修正。地方創生交付金などを活用

加藤 勝義 議員

●未来づくり協働プログラム事業について

問 事業費はどれくらいか。

答 原画収蔵室、アーカイブルーム、企画展示室や空調設備改修を概算し、事業費5億円を見込んでいる。

問 現在のまま活用するコンベンションホールに付随した控室の確保は。

答 控室は現在の楽屋に加え、中研修室をワークショップなど多目的に利用できる部屋に改修予定だ。こちらも控室として活用できる。

問 原画を収集するための財源と見通しは。

答 当初10万点を目標としていたが、他の動向を踏まえ、30万点以上に目標を上方修正した。収集には寄託、買取、寄贈などがあり、補助事業などを活用しながら事業を進めていく。

●地域づくり協議会について

問 地域づくり協議会の役割



増田まんが美術館

割に、公共施設の設置・廃止等について審議し、市長に意見を述べることもあるが、財産経営推進計画(FM計画)を含め、協議会で意見の重要度は。

答 地域の貴重な意見として、計画策定の参考にさせていただきます。

問 設置条例からすれば、未来づくり協働プログラムも庁舎のオープンラボレーション事業も、事前に地域づくり協議会で可否を含め審議しなければいけないかと思うがどうか。

答 条例や協議会のあり方を含め、今後検討する。



Q 地域包括ケア体制における、病院の役割とは

A 誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるために在宅医療を支援すること

立身 万千子議員

●横手市における地域医療の実態について

問 医師・看護師を含め、医療職の研修体制の状況は。

答 常に新しい知識と技術が求められるため、各種資格等の取得を積極的に奨励している。

問 研修医の地域医療実習の状況は。

答 当直・日直のほか、横手病院は、献血の検診医や人間ドック健診の実習などを行っており、大森病院は、夕暮れ診療や訪問診療の随行などを行っている。

●医療介護総合確保推進法の成立に際し、新公立病院改革プラン策定にあたっての課題について

問 病床機能が4区分されることによる両病院への影響はどうか。

答 横手病院は、急性期病床178、回復期病床47。大森病院は急性期病床50、慢性期病床100と県に報

告している。横手医療圏では急性期病床が多く、回復期・慢性期病床が少ないと指摘されており、今後の地域医療構想策定調整会議での議論を注目していきたい。

問 「施設から地域へ、医療から介護へ」という流れで両病院はどう変わるか。

答 在宅からの緊急入院の受入れ、訪問診療、訪問看護等で在宅療養を支援していく方向になる。

問 経営形態の見直しは。

答 病院運営に関し事業管理者が責任を持って迅速な意思決定を行うことができ現在の経営を続けていく。



大森病院の夕暮れ診療の受付は午後5時～7時

Q 公文書館構想について

A 活用する施設を具体的に絞り込む

土田 百合子議員



問 平成24年12月の公文書館の質問の答弁は「ある程度、集約する必要がある、利用できる建物としては、統合後の空き校舎も考えられる。情報収集を行い検討を進めて行く」とのことであった。市長の見解を伺う。

答 来年度は、活用する施設を具体的に絞り込むなどハード面の検討を行いながら、平成23年度と24年度の2力年かけて整理を行った保存文書について、歴史的

文書として保存する文書と廃棄する文書の選別作業に取り掛かる予定である。

問 沼の柵周辺の地域開発について。

答 歴史も景観も企業の振興も大事である。これまでの経緯も大事である。さまざまな要素を総合的に判断し、検討する。

問 旧境町公民館解体について。

答 解体する方向で検討している。



保管を待つ公文書

問 廃校となった学校の校長室に掲げられている歴代の校長先生の写真や、生徒達が授与された賞状、盾、トロフィーなどはどのような管理をするのか伺う。

答 保管に関する基準等を学校やPTAの判断に任せられているのが現状である。

問 今後は、貴重な学校の歴史資料の散逸を防ぐため、どのような保管ができるか検討していく。

その他の質問 ●子どもたちを地元農業の応援団に。

Q 地域の将来ビジョンの中で十文字第一小跡地をどう考えているのか

A 商業地域としてのまちづくりをしたい

齋藤 光 司議員



問 十文字地域の将来ビジョンと、十文字統合小学校の場所選定は表裏一体。市長の考える十文字地域の将来像は。また、まちづくりのどのような優位性をもって十文字中周辺なのか。

答 十文字地域は市の南の玄関口である。十文字第一小学校周辺は、道の駅と十文字駅を結び動線になっていることから、商業地域としてのにぎわいが創出できるようなまちづくりをしたい。合併前の十文字町において文教エリアとして位置づけられた地に、地域の小中学校、陸上競技場等がそろって立地することは、

教育の観点からのまちづくりとして意義がある。

問 当局案で一番心配なのが、低学年児童の危険要因と通学距離の負担増である。具体的な対処法は。

答 通学路の安全対策は、関係機関による体制を構築



十文字第一小学校付近のまちなみ

し、必要に応じた対策の検討と事業実施ができるよう協議していく。距離だけでなく、通学路の安全性、地理的な事情も含め、児童の負担軽減策を検討する。

問 転入生などがいないと来年度植田小学校で複式学級が出現する。保護者、地域の心配が非常に大きい。市の対応策は。

答 今年度黒川小では、県教育委員会の配慮で複式学級解消のための加配措置があり、講師が1名配置された。植田小でも同様の可能性があるが、ない場合は指導支援員を市で雇用する。

Q TPP「大筋合意」は国会決議違反が明白だ。市長はどう思うか

A 農業への影響は心配だが、国の動向を見極めたい

齋藤 勇 議員



●TPP交渉について

問 交渉の「大筋合意」は決着したかのような状況にあるが、市長の所見は。

答 TPP交渉の合意内容については、プラスとマイナスの影響があることから、国の動向を見極めながら対応を考えていく。

問 重要5品目での国会決議違反は明白であり、当局への影響等をどう考えるか。

答 重要5品目の関税撤廃こそ回避されたものの、牛肉などの関税が段階的に大幅に引き下げられるなど、マイナスの影響が大きいと予想されている。国や県の対策の内容を見極めながら市の取り組みを検討する。

問 今後は、TPP「協定案」の撤回と、国会での承認・批准の中止を求める運動を広げる必要があると考えるが、市長の見解は。

答 国内での協定承認を見据え、特に農業分野での対



TPP国会決議の順守を求めるJA・農業関係者ら

策強化に取り組んでいく。●農業振興について

問 台風並みの強風による果樹等の被害は3億円以上と試算される。豪雪を含め5年連続の被害に持続可能な有効策が必要だがどうか。

答 「マル農」に限らず種々の融資制度を周知し、JAや県とも連携していく。

問 複合経営の所得向上のために戦略作物等への支援強化が欠かせない。市長の所見は。

答 重点振興作物等への加算や小規模農家への市単独助成をはじめ、現政策を継続していく。

厚生 常任委員会



委員長 土田百合子(公明党)
副委員長 高橋和樹(みらい横手)
委員 菅原恵悦(市民の会)、播磨博一(さきがけ)
土田祐輝(新政会)、佐藤清春(新政会)
佐藤誠洋(新風の会)、木村清貴(新風の会)
阿部正夫(市民の会)

クリーンプラザよこての 直接搬入手数料が統一に

◆横手市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正について

問 一般廃棄物や粗大ごみを直接クリーンプラザよこてに搬入したときの手数料を130円に統一することは、現行の料金と比べ市民にとって不利益とならないか。

答 家庭系の部分だけを見ると値上がりする。しかし、新たなごみの分別では可燃ごみとして集積所への搬出が可能となる種類が増える。市民が直接搬入する機会としては、引越など特別な事情による場合である。粗大ごみの手数料は、現在の10キログラムあたり157円から下がることになり、総合的に考えれば実質的に負担は軽減されると思う。

ごみ分別の啓蒙を図り、できるだけ集積所を利用してもらえるよう周知に努める。

問 ごみの焼却灰の資源化について。
答 ごみを焼却した後、主灰をふる

いにかけて、灰の部分はセメント化し、残った金属類等は処分する。飛灰についても固形化して最終処分場に埋め立てる。

◆平成27年度一般会計補正予算
問 要援護者台帳の整備状況と名簿作成後の活用方法について。

答 援助が必要と見込まれる要援護者の方々へ、有事の際の支援に対する同意確認書等の書類を送ったが、回答率は50%程となっている。「個別計画書」については、年度内に調整し、本人と支援者の方々へ送る予定である。「要支援者名簿」は、年度内に避難支援等を行う関係者へ送り、大規模災害等が発生した際や、そのような災害の発生が予想される際に、災害本部のもとで活用される。

◆平成27年度横手市介護保険特別会計補正予算
問 要介護4、5の方たちが施設への入所を希望してもなかなか見つ

らない状況の中で、地域密着型サービスの利用が見込みより少ないことをどう捉えるか。

答 周知しきれていないことがあるかもしれない。特別養護老人ホームの待機者は、現在も2百数十名くらいいると見込んでいる。緊急の場合はそれぞれの事業所で判断して、申し込みの順番に関わらず優先的に入所させる仕組みはあるので、まずは居宅サービスを利用しながら自宅で頑張っていたいただきたい。

(土田 百合子)



クリーンプラザよこてを視察

産業建設 常任委員会



委員長 青山 豊(新風の会)
副委員長 小野 正伸(新政会)
委員 斎藤 勇(日本共産党)、佐々木喜一(さきがけ)
齋藤 光司(市民の会)、加藤 勝義(新風の会)
佐々木 誠(市民の会)、佐藤 徳雄(みらい横手)

農地中間管理事業は 依然としてミスマッチ状態

◆平成27年度一般会計補正予算

問 農地中間管理事業によるマッチングの状況は。

答 今年度、出し手側の面積は605ヘクタールほどを見込んでいる。これに対して、受け手側の要望は1221ヘクタールであり、依然としてミスマッチ状態となっている。マッチングには、出し手の掘り起こし活動の強化、また、マッチングの精度を高めていくしかないと思うので、まずは農業委員会やJA秋田ふるさとと連携を密にして情報を収集していくことが第一義的な対策だと考えている。

問 増田地区街なみ環境整備事業に関して、備品購入費は本来当初予算に計上すべきだったのではないか。

答 本来、当初予算に計上すべき備

品費だったが、関係部署間の行き違いから取り落としになっていた。

また、補正予算への増額も考えていたが、工事の請負差金もあつたことから、こういう手法になつてしまった。今後、このようなことないように、しっかりと点検したい。

◆陳情

●TPP交渉について、陳情の趣旨は、①大筋合意の詳細と協定本文を速やかに開示し、国会・国民の議論を保障すること、②協定への調印・批准は行わないことであった。

委員からは「暫定文書が発表され、事態はまさに風雲急を告げる状態だ。こうした状況を踏まえての陳情であり、中身についても十分理解できるものである」との意見があつた。

討論では、1名の委員より賛成の立場で発言があり「農業分野は重要5品目全てで譲歩、それ以外も軒並み関税撤廃という大筋合意の内容だ。

医療や労働の面でも大変で、いま一生懸命働いている方々に多大な影響を与えるのは間違いない。家計や地域経済にもすごい影響を与える意味では、百害あって一利なしである。地域住民を代表する議会として、きつちりとした対応が今こそ求められると思う」との内容だった。

採決の結果、起立少数により、不採択とすべきものと決定した。

(青山 豊)



大沢ぶどうジュースの加工場を視察

総務文教

常任委員会



ふるさと納税のPRと 仕組みづくりについて

◆平成27年度一般会計補正予算

【ふるさと納税PR事業について】

最近メディア等で寄附に対する返礼品というものの良し悪しを含め、返礼品合戦議論が深まってきている。これに呼応すると高い割合の品を返さなければならぬ状況に陥ることもなるので、品だけでなく横手市PRできるものなど、仕組みづくりが必要ではないか。

【答】横手市を応援してもらう一つの環がふるさと納税だ。納税額一位をねらうものでもない。返礼する地元産品の評価を元にした産業の振興、そして交流人口の拡大に結びつける観点等からこの事業に取り組んでいる。

【問】学校給食センターにおけるハサップ認証取得について、4つのセンターは築年数含め建物・設備に差異がある。また、業務委託と直営という運営形態も違う。認証取得に向け、

どう進めていくのか。

【答】認証制度については、製造過程などいろいろな工程があるがその中で、危害分析点というものを設けてそれを重点的に管理していくことで、安全な食品が製造されるということであり、施設、器具が古いからできないということではない。運営形態が違っても同じように衛生管理をしており、それをベースにハサップ認証を得る衛生管理マニュアル等を作成し、申請していただくものである。

【問】スポーツのまちづくり事業500万円の補正について。

【答】3月に全日本男子バレーボールチームが横手で強化合宿を行うための補助金である。まちづくりからの観点からすれば今回予定されているチームは、昨今の人気、活躍からして経費以上の経済効果等は十分あると考えている。

【問】小規模事業所でのマイナンバーの取り扱いについて指導等はしているか。

【答】商工会、商工会議所、税務署と連携して、詳細な説明会を実施してきた。対応に悩んでいる事業所があれば、市に問い合わせてもらえれば個別に対応する。

(高橋 聖悟)



ふるさと納税で返礼している地元産品

議会報告会・意見交換会での 要望等に対する市の回答

平成27年7月に開催した「議会報告会・意見交換会」で市民の皆さんから寄せられたご意見等を、10月13日に当時の木村議長、遠藤副議長、議会改革推進会議の播磨委員長が、高橋市長に報告しました。

市に回答を求めた23項目のうちの一部を抜粋してお知らせします。全文は、市議会ホームページ（HP番号000019105）でご覧いただけます。



議会報告会・意見交換会での要望等を高橋市長(右)に報告

テーマ	市民の皆さんの意見・要望	市からの回答
F M 計画	大鳥公園は国指定の史跡で平泉との関係も見えてきた。旧鳳中学校を文化財保護の観点から活用できないか。市には資料展示する場所が少ないと感じる。	市民はじめ観光客からも展示案内施設設置の要望は多数あります。全国的には国史跡近くに施設が整備されており、後三年合戦関連の展示が少ないことから、国史跡に隣接する旧鳳中学校を活用して整備するなど、要望についてはいろいろな角度から検討します。
公共施設	平鹿生涯学習センター、雄物川コミュニティセンター、大森コミュニティセンターの大ホールの使用料金がまちまちで、合併前の料金体系を引き継いでいるようだ。例えば、大森は1,050円、雄物川8,400円、平鹿5,250円とばらつきがある(昼12時から5時)。5時以降はさらに料金上がる。10年も経っているのにこういう体制だと不公平である。議会としてどのように考えているか?このままだとだめだと思う。高い施設は使わなければいい。遅い時間になれば8,400円が1.5倍の12,600円になる。あまりにかけ離れているので、市全体で検討してほしい。	市内施設の使用料については、さまざまな条件により各地域で差があるのが現状です。それぞれの地域局管理の中で別々の設置条例により定められています。消費税10%の引き上げ時期に合わせて、開館、閉館の設定時間を含めた見直しの統一を関係課、地域局との調整を図りながら検討していきます。
学校関係	スクールバスについて。登校に50分くらいかかっている。夏季は体力づくりということもあると思うが、冬季のバス利用を要望したい。また、帰りのバスも2時、3時、4時と運行してもらっているが、乗車人数は2、3人のようだ。回数を減らし、待ち時間は宿題をするために教室を開放するなど検討してもらえないか。	冬期のスクールバス運行については、道路や地域の実情、状況の変化などをみながら必要に応じて検討していきたいと考えています。スクールバスの運行状況については、登校は各校の始業・登校完了時間に合わせて運行しています。下校については、小学校が一斉下校のほか、終業時間に合せて1便目が低学年、2便目が高学年という形で運行する場合があります。また、中学校は、所属する部活動により下校時間が違うため、これに対応した形で2~3便運行していますので、乗車人数が少ない場合もあります。いずれ出発時間まで間がある場合は、教室等で学びの時間を設けている学校もありますので、引き続き円滑なスクールバス運行に努めていきます。
空き家対策	私の斜め向かいも空き家。1カ月前、NPOの方が名札をつけて空き家の現地調査をしていた。横手市が許可したのか?個人の家に勝手に入っている。私の町内会にも9軒空き家がある。勝手にそういうことをされるととても不安。戸を叩いたり足で蹴ったりしていたので、調査員が帰るまで見張っていた。市でそういうことをしていないのだとしたら、きちんと届出をして町内会に知らせてほしい。市で必要であれば、町内会長の同行を求めてやってほしい。	今回の空き家調査については、秋田県企画振興部人口問題対策課がNPO法人秋田移住定住総合支援センターに委託しているものです。議会報告会の際にその話を伺い、県に対し指導を徹底するよう要望するとともに、市報に空き家調査を行っている旨の記事を掲載したところです。今後、当市でも、空き家に関する継続的な調査を予定していることから、調査員の指導を行うとともに、市民に分かりやすい周知方法を検討していきます。
その他	うちの集落は20数軒に街路灯が11あり、夜通し灯りがついている。電気代はただではないはず。財政に関係ないことはないはずだ。何でもやるのが市民サービスだと考えているのかもしれないが、節約できるところは節約してほしい。夜中に街路灯が消えてもサービスの低下とは考えない。街路灯の電気使用料を検証してみたらどうか?地域の理解は得られると思う。市民は一度受けたサービスを減らせない。わがまま。それを理解してもらおう努力も必要と思う。	街路灯に関する電力使用の契約は1カ月単位で定額の契約になっており、使用量や使用時間によって料金が高くなる契約にはなっていません。また、街路灯については、歩行者の安全確保のみならず不審者を識別することによる防犯の役目を併せ持っていますので、深夜の消灯はせずに住民の安全を確保したいと考えています。しかしながら、経費の節減は当然必要です。現在市では、街路灯のLED化による電力使用量の削減に併せて街路灯の再配置を検討する中で箇所の削減も検討していきます。

※ハサップ…食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法。

市民の声

郷土愛

十文字地域 高橋 淳さん(43歳)

5年前に民間の研究所在調査した「出身都道府県への愛着度・自慢度」のランキングがある。秋田県はそれぞれ45位、41位という結果だそう。また、この調査には「自慢に思う要素」の項目があるのだが、「自然豊かなこと」「食事がおいしいこと」が上位要素となっている。ということは、その2点すら自慢できないがために41位となったともいえる。

横手市は、日本最大の盆地の中央に位置し、派手さはないが四季ごとに郷愁をくすぐる田園風景を有している。

また、その肥沃な土壌により質・量ともに国内有数の穀倉地帯を形成しており、これまた四季ごとに多種多様な作物が収穫されている。間違いなく国内でも稀有な地域なのである。

せめて横手市民はこの郷土を少しは自慢に思っても良いのではなからうか。決して恥ずべきものではないはずである。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり市民の皆様のご多幸をお祈り致します。

今年の11月臨時議会において「広報広聴委員会」が設置され、議会だよりは広報分科会が担当することになりました。その他横手かまくらFM、市議会ホームページ等の広報も担当してまいります。「議会だより」は市民の皆様に分かりやすく、そして読んでもらえるように紙面づくりに努めてまいります。8人の新メンバーで楽しく、そして協力し合いながら頑張っていく予定です。よろしくお願い致します。

(佐々木 誠)

◆ 広報広聴委員会 広報分科会 ◆



分科会長	佐々木 誠
副分科会長	奥山 豊和
委員	高橋 聖悟
	土田百合子
	高橋 和樹
	佐藤 誠洋
	立身万千子
	阿部 正夫

● 議会の主な動き ●

平成27年10月～12月

10月

- 1日 議会広報委員会
- 6日 FM議会番組収録
- 8日 議会改革推進会議
- 13日 議会運営委員会、厚生常任委員会協議会
- 16日 秋田市議会議長会臨時会
- 20日 FM議会番組収録
- 26日 消防議員連盟研修会、議会広報委員会、全員協議会、議員懇談会、会派代表者会議
- 30日 FM議会番組収録

11月

- 4日 厚生常任委員会協議会、県南地域市議会議員研修会
- 5日 正副委員長会議、全員協議会、会派代表者会議、議会運営委員会
- 12日 市議会11月臨時議会
- 13日 特別研修報告会、秋田市議会議長会研修会
- 16日 FM議会番組収録
- 17日 FM議会番組収録
- 18日 全国市議会議長会研究フォーラム in 福島(～19日)
- 24日 各常任委員会協議会、正副委員長会議、広報分科会、全員協議会、議会運営委員会
- 26日 秋田県森林・林業・林産業活性化推進議員連盟定時総会
- 27日 全国市議会議長会地方財政委員会
- 30日 市議会12月定例議会(～12月16日)、会派代表者会議

12月

- 1日 総務文教常任委員会協議会、FM議会番組収録
- 3日 広報分科会、FM議会番組収録
- 7日 議会運営委員会、会派代表者会議、広報広聴委員会、議会改革推進会議
- 8日 全員協議会
- 9日 議員懇談会、タブレット端末導入推進会議
- 10日 総務文教常任委員会協議会
- 11日 産業建設常任委員会協議会、厚生常任委員会協議会
- 14日 正副委員長会議、議会運営委員会
- 15日 広報分科会
- 16日 会派代表者会議、全員協議会、広報分科会、タブレット端末導入推進会議
- 18日 スマートIC整備促進議員連盟役員会、FM議会番組収録
- 21日 広報分科会
- 22日 Y8サミット創快横手市議会、議員懇談会、スポーツ振興議員連盟条例の検証会、タブレット端末導入推進会議
- 25日 広報分科会、各常任委員会協議会、タブレット端末導入推進会議
- 28日 広報分科会